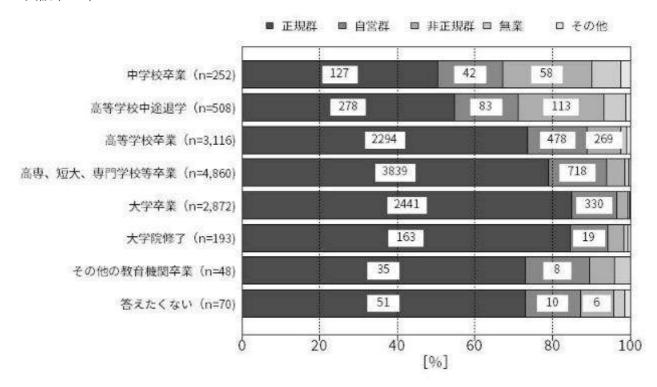
### 母親の最終学歴別に見た、就労状況(問7×問8)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市中央区>

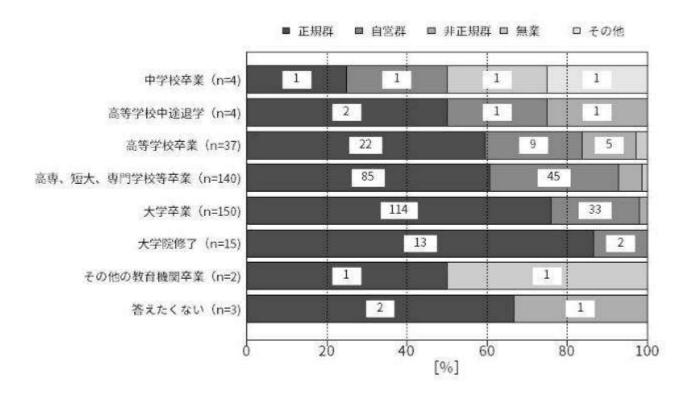
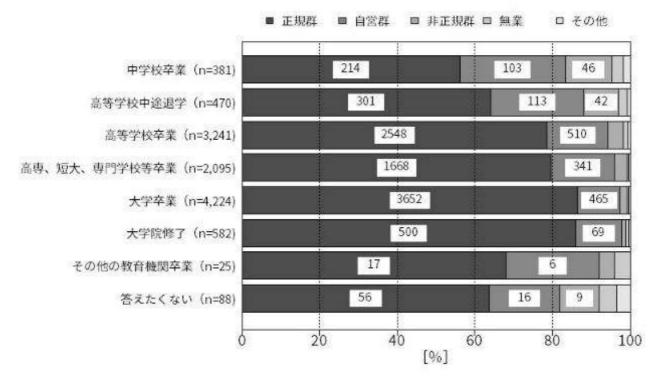


図 112. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

学歴が高いほど、正規群の割合が高く、非正規群の割合が低くなる傾向にあった。

### 父親の最終学歴別に見た、就労状況(問7×問8)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市中央区>

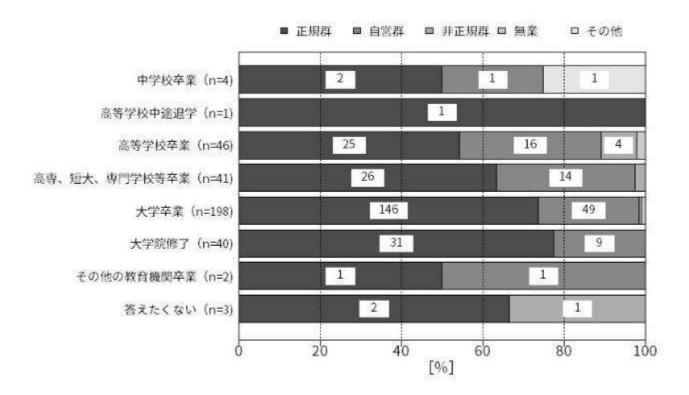
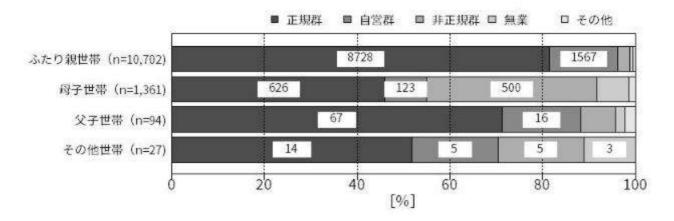


図 113. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

学歴が高いほど、正規群の割合が高く、非正規群の割合が低くなる傾向にあった。

# 世帯構成別に見た、就労状況(問1×問8)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

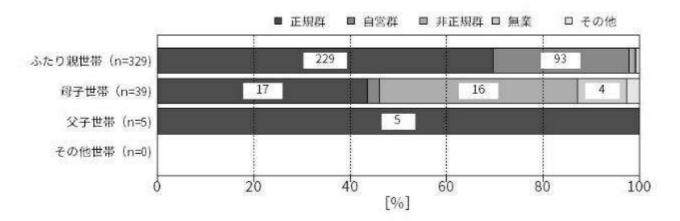
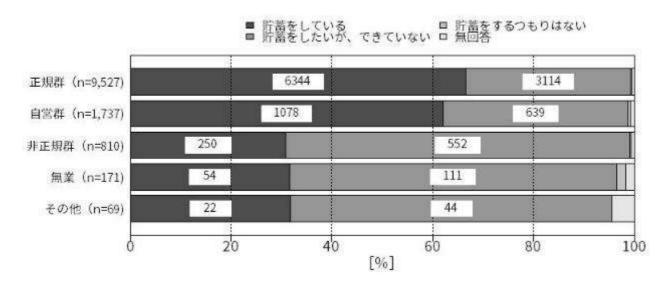


図 114. 世帯構成別に見た、就労状況

ふたり親世帯では、正規群の割合が高かった。母子世帯では、正規群の割合が低く、43.6%であった。

# 就労状況別に見た、子どものための貯蓄(問8×問5-3)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

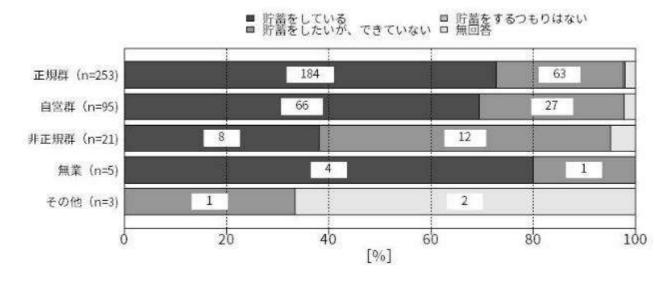
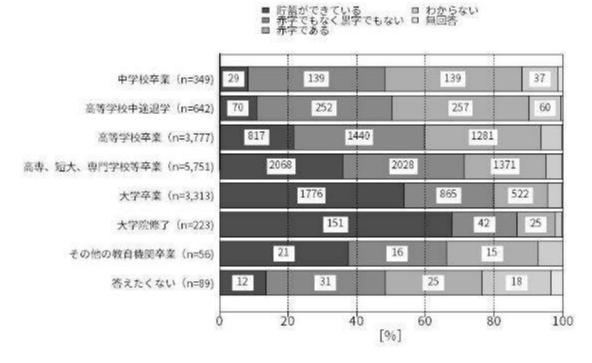


図 115. 就労状況別に見た、子どものための貯蓄

正規群では貯蓄ができている割合が高く、非正規群では貯蓄できている割合が低くなる傾向にあり 38.1%であった。

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市中央区>

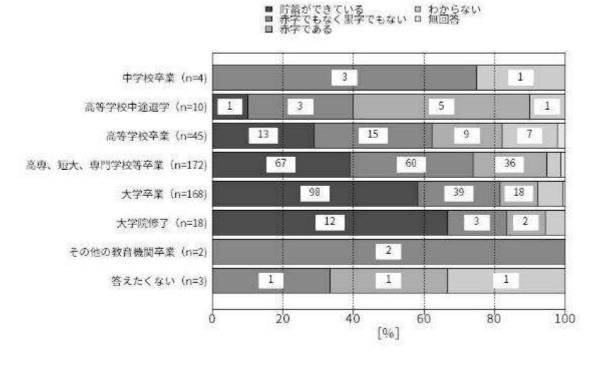
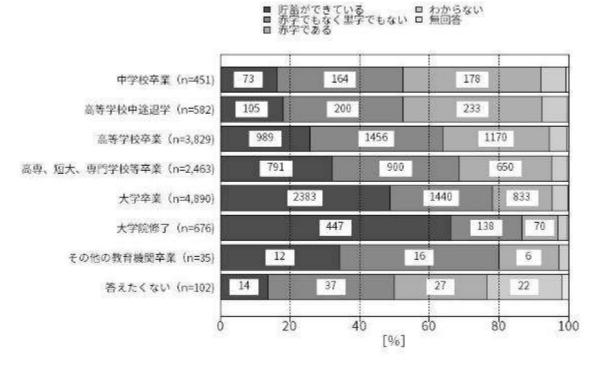


図 116. 母親の最終学歴別に見た、家計状況

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高く、赤字である割合が低くなる傾向にあった。

# 父親の最終学歴別に見た、家計状況(問7×問5-1)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

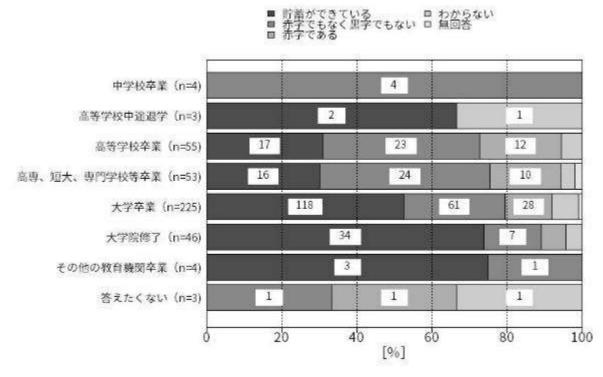
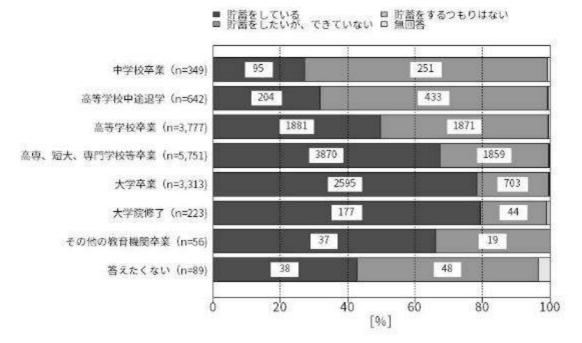


図 117. 父親の最終学歴別に見た、家計状況

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高く、赤字である割合が低くなる傾向にあった。

# 母親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄(問 7×問 5-3)

#### <大阪市 24 区>



#### <大阪市中央区>

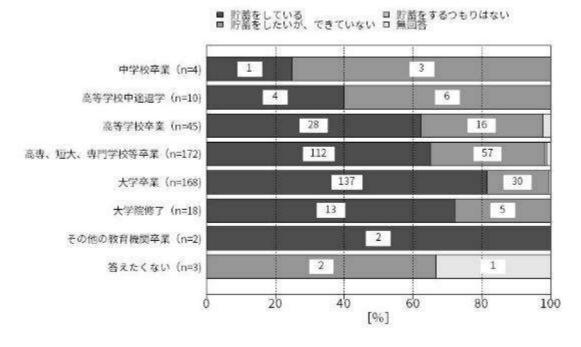
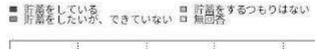


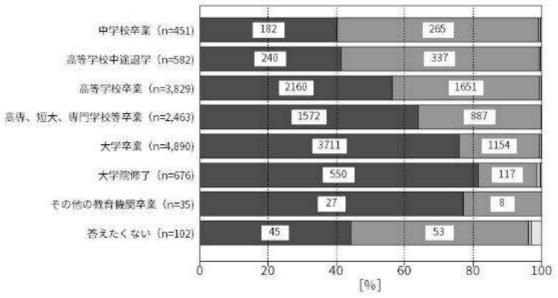
図 118. 母親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高くなり、貯蓄をしたいができていない割合が低くなる傾向にあった。

# 父親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄(問 7×問 5-3)

### <大阪市 24 区>





#### <大阪市中央区>

#### ■ 貯蓄をしている ■ 貯蓄をしたいが、できていない □ 無回答

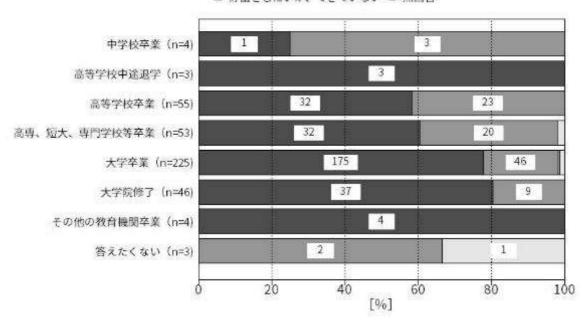


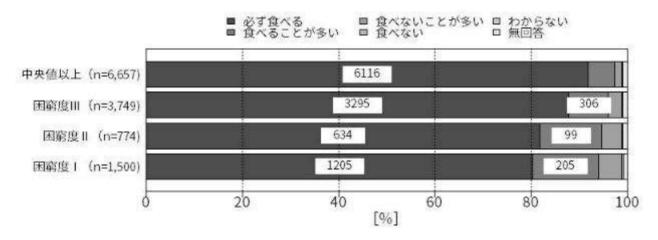
図 119. 父親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高くなり、貯蓄をしたいができていない割合が低くなる傾向にあった。

### 3-3. 健康

### 困窮度別に見た、朝食の頻度(問17)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

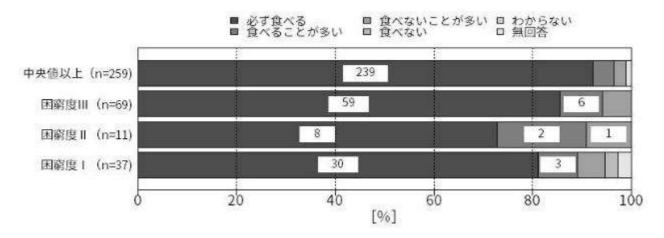


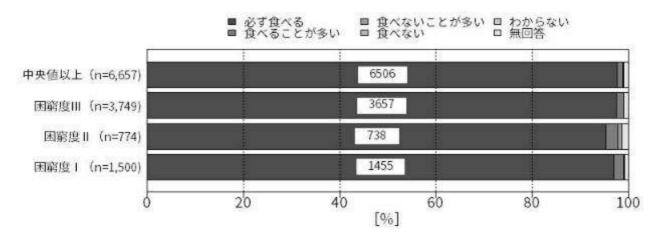
図 120. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「必ず食べる」の割合が低くなる傾向にあり、困窮度 I 群においては 81.1%となっている。

# 困窮度別に見た、夕食の頻度(問20)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

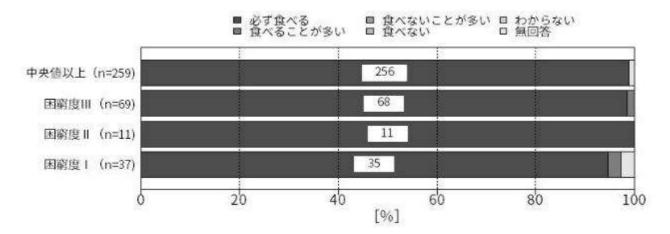


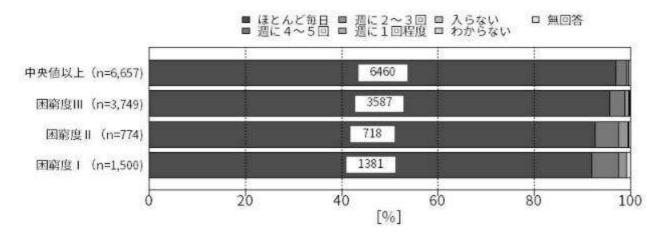
図 121. 困窮度別に見た、夕食の頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度Ⅰ群では「必ず食べる」割合が低くなり、94.6%であった。

### 困窮度別に見た、入浴頻度(問23)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

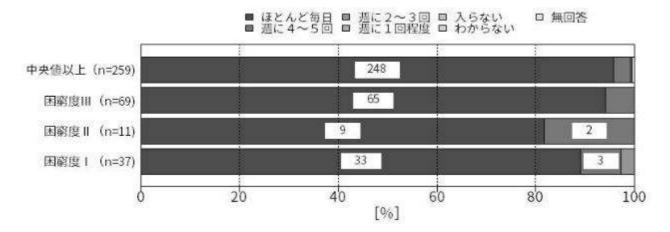
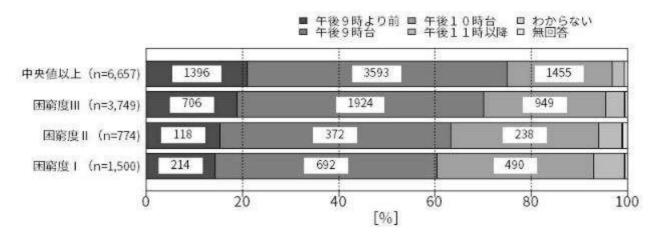


図 122. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、お風呂にほとんど毎日入る頻度が低くなる傾向にあり、困窮度 I 群においては 89.2% となっている。

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

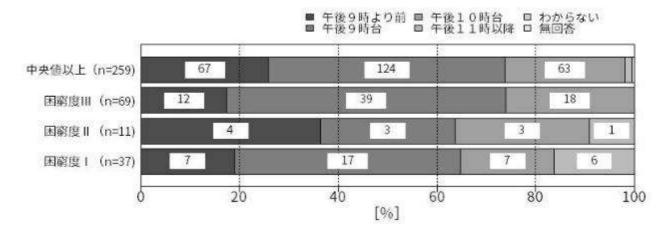


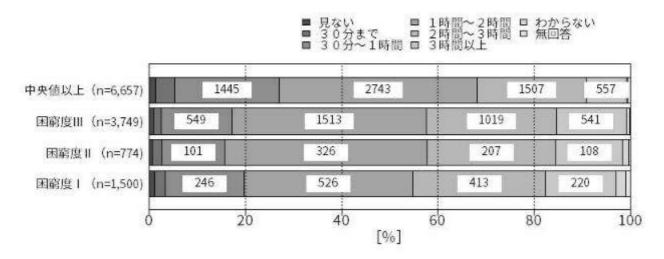
図 123. 困窮度別に見た、就寝時間

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、就寝時間が遅くなる傾向にあった。、困窮度 I 群においては午後 1 1 時台と回答した割合がやや高く、16.2%となっている。

# 困窮度別に見た、テレビ視聴時間(問24)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

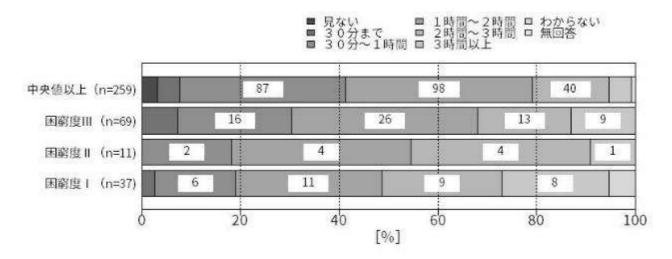


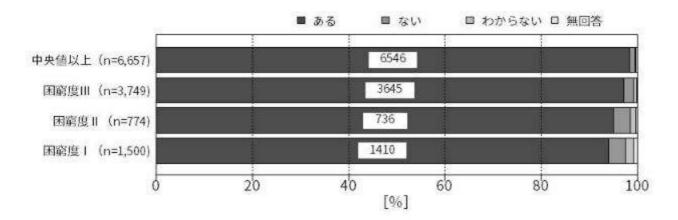
図 124. 困窮度別に見た、テレビ視聴時間

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、視聴時間が長くなる傾向にあった。中央値以上群では「見ない」 ~「1時間~2時間」の回答を選択した割合が高く、約8割となっている。

# 困窮度別に見た、歯磨きの習慣(問25)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

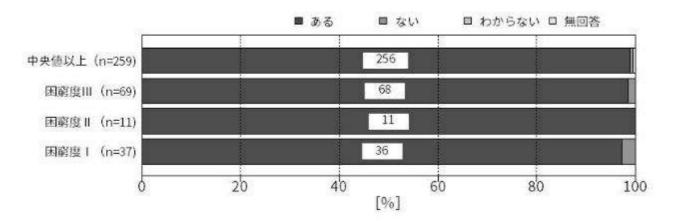


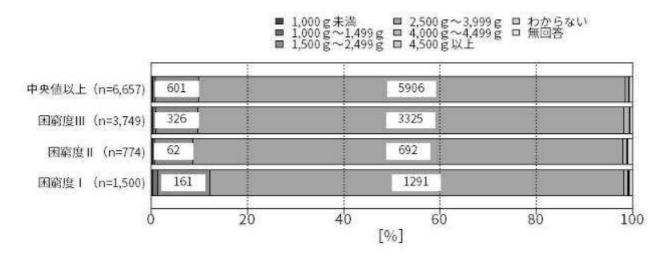
図 125. 困窮度別に見た、歯磨きの習慣

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、歯磨きの習慣が「ある」の割合がわずかに低くなる傾向にあった。

### 困窮度別に見た、出生時体重(問11)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

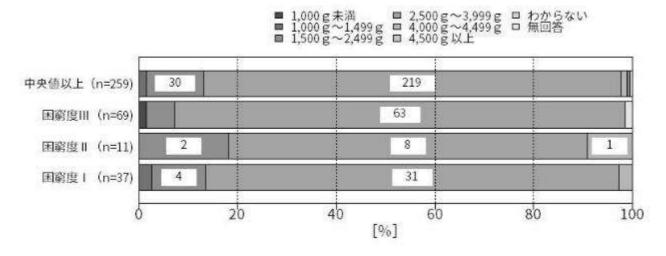


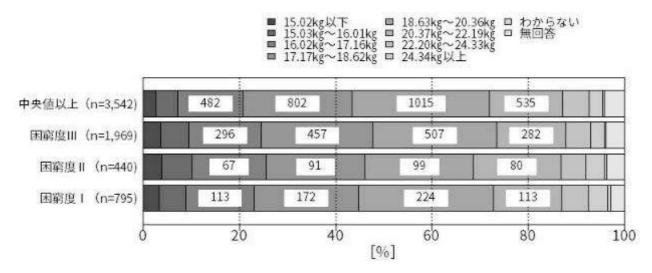
図 126. 困窮度別に見た、出生時体重

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、出生時の体重が低くなる傾向にあった。困窮度 I 群において  $[1,000 \,\mathrm{g} \sim 1,499 \,\mathrm{g}]$   $[1,500 \,\mathrm{g} \sim 2,499 \,\mathrm{g}]$  と回答した割合は合計  $[1,500 \,\mathrm{g} \sim 1,499 \,\mathrm{g}]$ 

### 困窮度別に見た、現在の体重(問13-1) <男子>

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

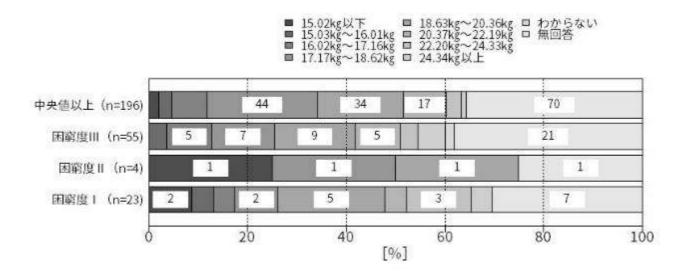


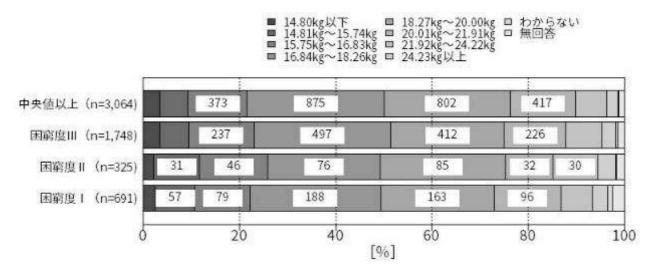
図 127. 困窮度別に見た、現在の体重<男子>

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度と現在の体重(男子)を見ると、中央値以上群では「17.17 kg~18.62 kg」が多く、困窮度Ⅲ 群・困窮度Ⅰ群では「18.63 kg~20.36 kg」が多かった。

### 困窮度別に見た、現在の体重(問13-2) <女子>

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

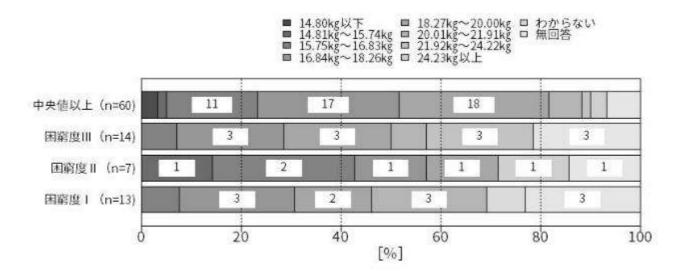
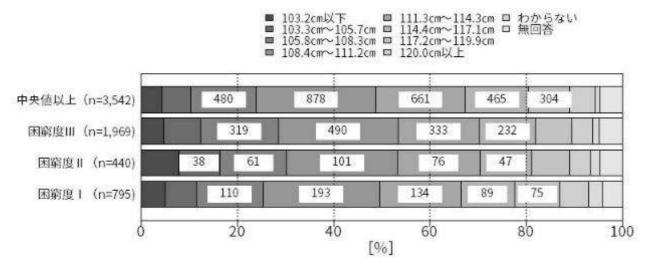


図 128. 困窮度別に見た、現在の体重<女子>

中央値以上群を除き人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

### 困窮度別に見た、現在の身長(問14-1) <男子>

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

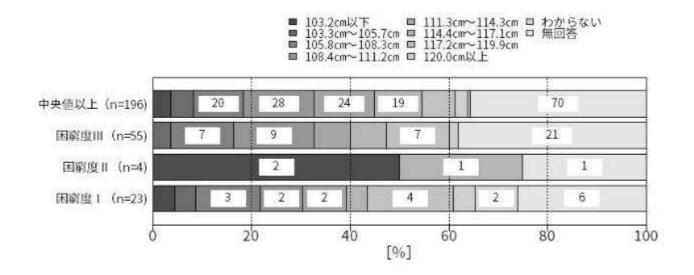


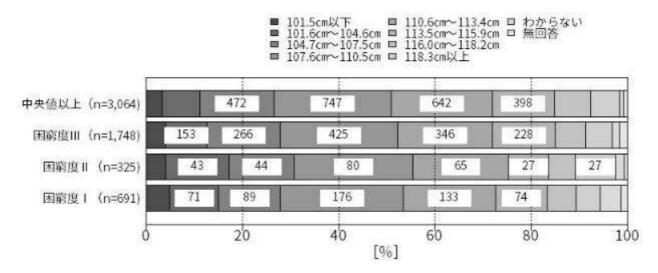
図 129. 困窮度別に見た、現在の身長<男子>

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度によって、現在の身長(男子)には大きな差は見られなかった。

### 困窮度別に見た、現在の身長(問14-2) <女子>

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市中央区>

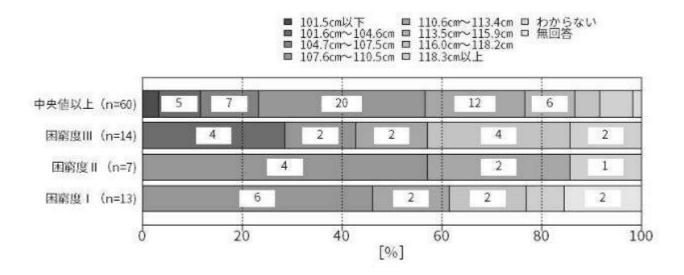
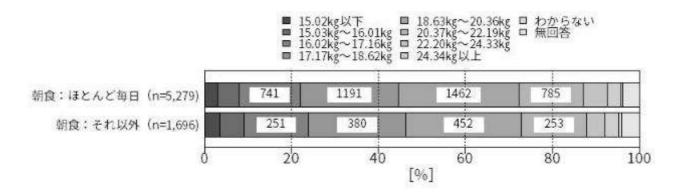


図 130. 困窮度別に見た、現在の身長<女子>

中央値以上群を除き人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

# 朝食の頻度別に見た、現在の体重(問 17×問 13-1)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

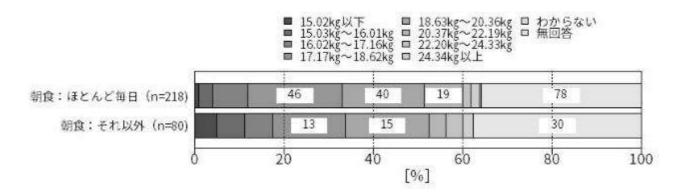
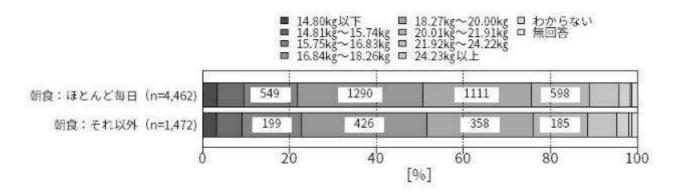


図 131. 朝食の頻度別に見た、現在の体重

朝食をほとんど毎日食べない男子は、「15.02 kg以下」「15.03 kg~16.01 kg」が合計 11.3%と多く、 体重が少ない割合が高くなる傾向にあった。

# 朝食の頻度別に見た、現在の体重(問17×問13-2)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

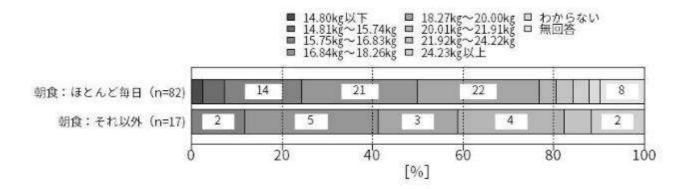
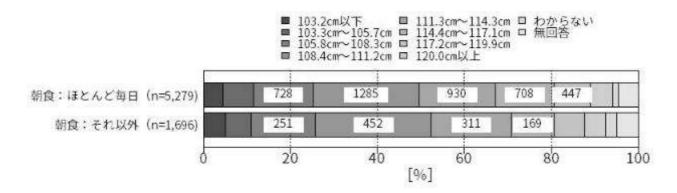


図 132. 朝食の頻度別に見た、現在の体重

朝食を毎日食べるわけではない女子は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

# 朝食の頻度別に見た、現在の身長(問 17×問 14-1)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

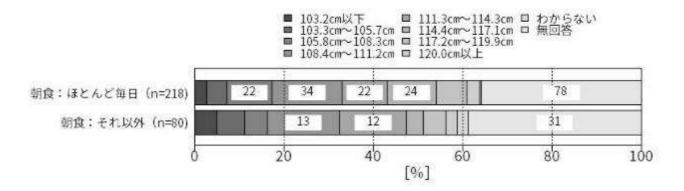
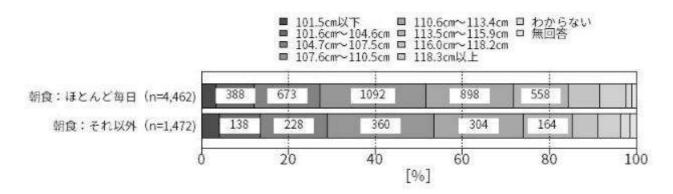


図 133. 朝食の頻度別に見た、現在の身長

朝食の頻度と男子の身長に関係は見られなかった。

### 朝食の頻度別に見た、現在の身長(問 17×問 14-2)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

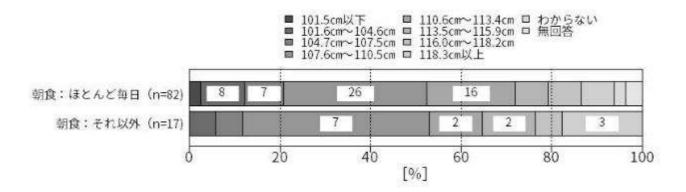
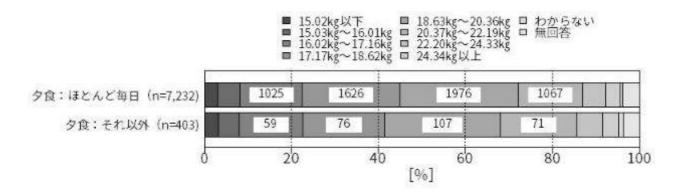


図 134. 朝食の頻度別に見た、現在の身長

朝食を毎日食べるわけではない女子は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

# 夕食の頻度別に見た、現在の体重(問20×問13-1)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

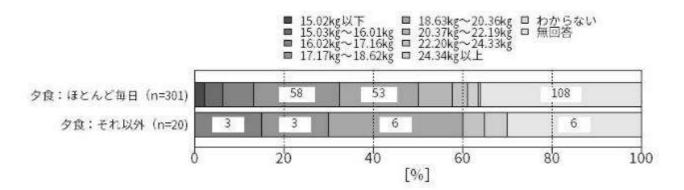
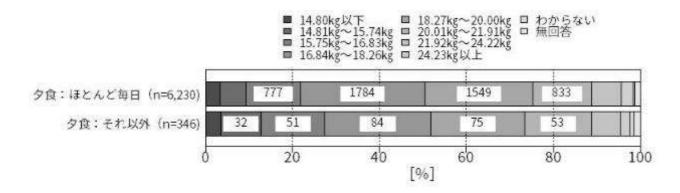


図 135. 夕食の頻度別に見た、現在の体重

夕食を毎日食べるわけではない男子は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

# 夕食の頻度別に見た、現在の体重(問20×問13-2)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

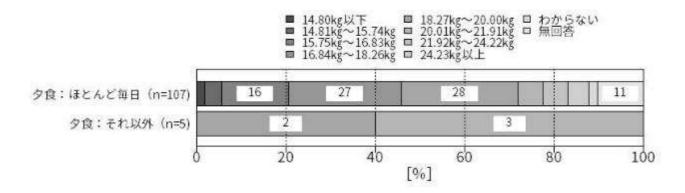
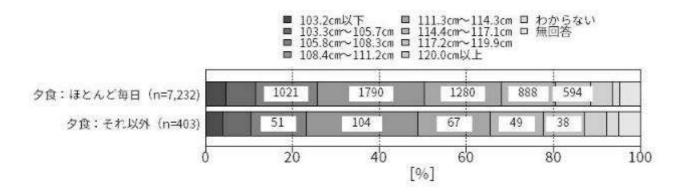


図 136. 夕食の頻度別に見た、現在の体重

夕食を毎日食べるわけではない女子は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

# 夕食の頻度別に見た、現在の身長(問 20×問 14-1)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

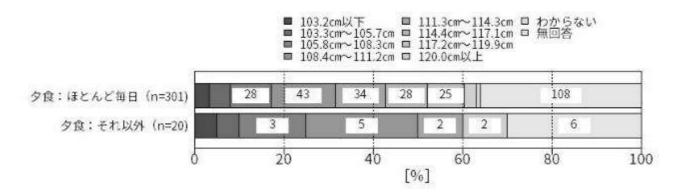
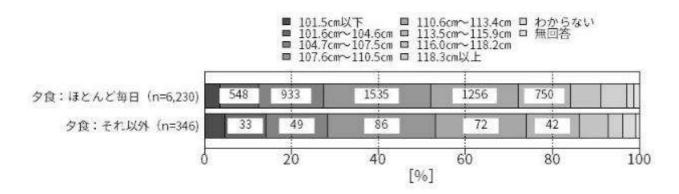


図 137. 夕食の頻度別に見た、現在の身長

夕食を毎日食べるわけではない男子は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

### 夕食の頻度別に見た、現在の身長(問 20×問 14-2)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

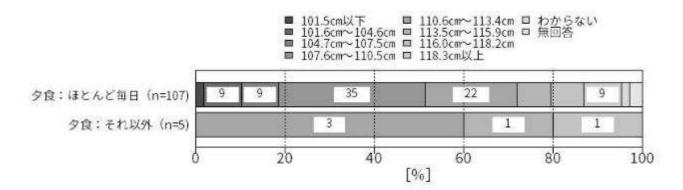
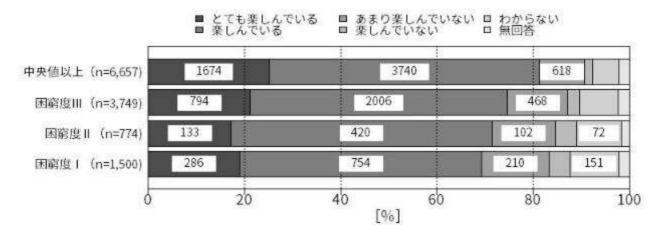


図 138. 夕食の頻度別に見た、現在の身長

夕食を毎日食べるわけではない女子は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

### 困窮度別に見た、心の状態(1)生活を楽しんでいる(問36-1)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

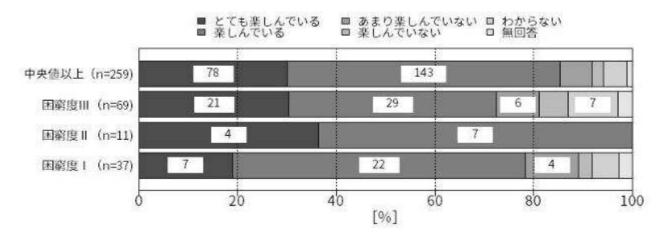


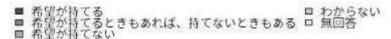
図 139. 困窮度別に見た、心の状態(1)生活を楽しんでいる

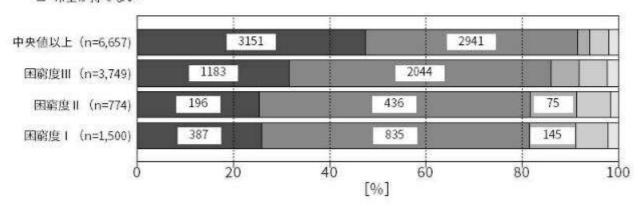
困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「とても楽しんでいる」と回答した割合が低くなる傾向にあり、困 窮度 I 群においては 18.9%であった。

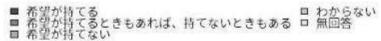
# 困窮度別に見た、心の状態(2)将来への希望(問36-2)

### <大阪市 24 区>





#### <大阪市中央区>



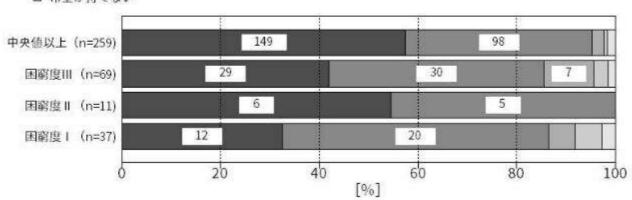


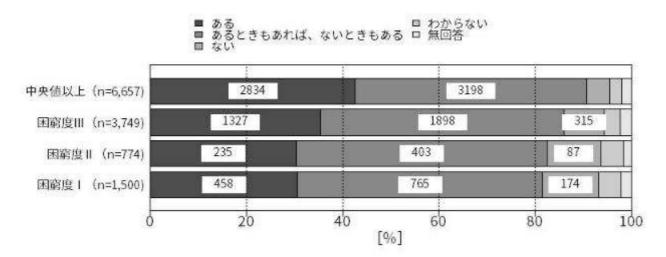
図 140. 困窮度別に見た、心の状態(2) 将来への希望

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「希望が持てる」の割合が低くなる傾向にあり、困窮度 I 群においては 32.4%であった。

# 困窮度別に見た、心の状態(3)ストレス発散できるもの(問36-3)

### <大阪市 24 区>



# <大阪市中央区>

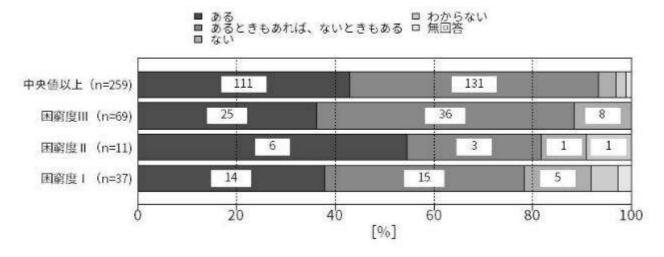


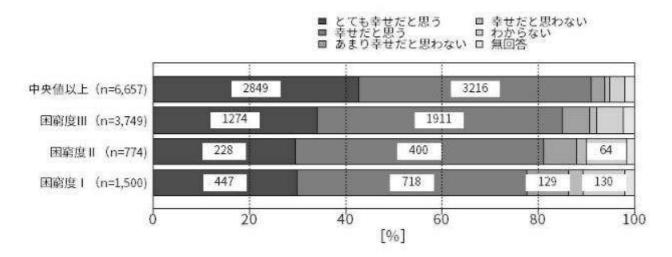
図 141. 困窮度別に見た、心の状態 (3) ストレス発散できるもの

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、ストレス発散できるものが「ない」と回答した割合が高くなる傾向にあり、困窮度 I 群においては 13.5%であった。

# 困窮度別に見た、心の状態(4)幸せだと思う(問36-4)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市中央区>

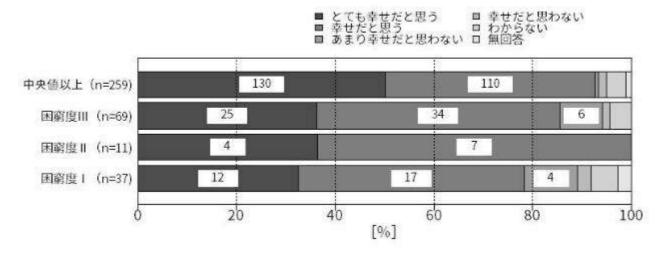


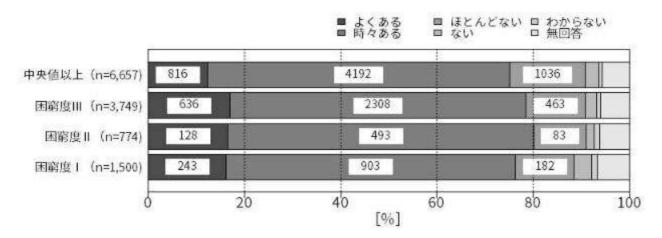
図 142. 困窮度別に見た、心の状態(4)幸せだと思う

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「とても幸せだと思う」の割合が低くなる傾向にあり、困窮度 I 群においては 32.4%であった。

# 困窮度別に見た、不安やイライラなどを子どもに向けることの頻度(問38)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市中央区>

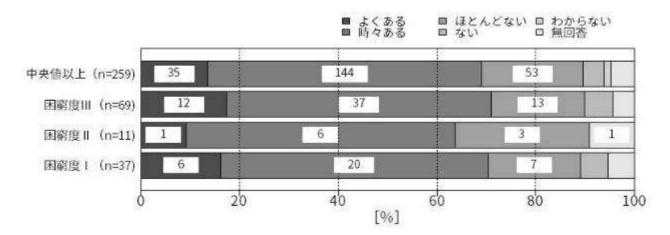


図 143. 困窮度別に見た、不安やイライラなどを子どもに向けることの頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

中央値以上群に比べ他の群では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した割合が高くなる傾向にあった。中央値以上群では 13.5%、困窮度 I 群では 16.2%であった。